

第2学年英語科学習指導案

日 時 平成30年11月6日(火)

学 級 2年1組

男子18名 女子15名 計33名

授業者 塩井 千春

1 単元名

教材名

PROGRAM7 If You Wish to See a Change

2 単元でつきたい力

学習指導要領第2節の「話すこと」[やりとり]の目標には、「ア、関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」とある。この目標の中で、“即興で伝え合うこと”の意味合いには、やりとりを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させることを重要視している。

このことを受けて本単元では、生徒に身につけさせたい力を次のように考え、特に③の項目内容について力をつけたい。

- ① 本文をスラッシュで読み、短い文のまとまりで素早く英文を読み取ることができる。
- ② 本文について読み取り、問題提起された内容について自分の考えを持ち、伝えることができる。
- ③ 新出文型<動名詞、look+形容詞、二重目的語構文>の用法を理解し、根拠が明確でつながりのある対話文を話すことができる。

3 単元の指導にあたって

(1) 生徒観

生徒たちは、英語学習に意欲的に取り組む生徒が多く、集中して授業に取り組める。1学期に行った学習アンケートでは、英語の学習内容がよくわかると答えた生徒が38%、だいたいわかる53%、あまりわからない9%という結果であった。4技能の中で得意な項目は「読むこと」が36%で一番多く、苦手な項目は、「書くこと」が35%で一番多かった。学年が進むにつれて上位と低位の差が大きくなっている。上位層と中位層の割合が多いが、低位層の生徒に、単語を読めない・書けない生徒もいる。しかし、低位層の生徒も、言語活動になれば教え合いができるので意欲的に取り組める。生徒たちは1学期の最後に、My Project 4で創作スキットをペアで考え、発表した。その際、対話のつなぎ方を学び、つながりのある対話を継続して行うことを大切にしてスキットを作らせた。本単元においてもその学びを活用し、言語活動に取り組ませたい。また、アンケートの「あなたが今一番身につけたい英語の力は何ですか。」という問いに一番多かったのが“対話力”と答えた生徒が8割もおり、一問一答のような単発的な対話からつながりのある対話を続ける力を本単元では重点を置き身につけさせていきたい。

(2) 教材観

本単元では、セヴァン・カリスマ＝スズキさんの環境保護を訴える強いメッセージを扱う。12歳で地球環境サミットに参加し、環境保全を訴える伝説のスピーチを行い、現在に至るまで継続して環境保護活動に取り組んでいる。彼女のメッセージの中にある、“地球を救うためには、地球に住む家族の一員として互いに助け合わねばならない”、“世界の変化を見たいのなら、まず自分自身がその変化となり地球に未来を与えなければならない”という言葉に触れ、生徒は環境保護や自分自身の生き方について考えることができる題材である。言語材料の、動名詞については、これまで習った第3文型SVOの目的語を名詞ではなく動名詞を使うことにより、伝える意味を動作を入れて具体的に表現することができる。look+形容詞については、身の回りの人の様子を適切

に伝える表現力を身に付けられる。二重目的語構文については、第3文型から第4文型を習得することにより、誰に対しての動作なのか対象者を具体的に示すことができる。この3つの文型は、全て日常生活においてよく使われる表現で、既習内容の発展的表現となっており、生徒の英語力の幅を広げるためにしっかり定着させたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、上記で示した単元でつきたい各力を身につけさせるために、

- ①については、⇒一連の長くまとまりのある文章を、時間をかけずに要点をとらえながら読み進める力をつけられるように、スラッシュリーディングの手法を用いて指導したい。スラッシュは、カンマ、接続詞、前置詞、長い主部、短い主語と動詞等の意味のまとまりで区切らせスラッシュのうち方に本単元では慣れさせ、以後の単元で定着を図っていく。
- ②については、⇒3セクションのセバンさんに関する文章を読み、セヴァンさんをどう思うのか、また、環境保護に関し自分はどうのように考え行動すべきかを既習の I think that ~ の構文を用いて発表できるように指導したい。
- ③については、各セクションの文法事項をよく理解させた上で自己表現や対話活動ができるように指導したい。その際、動名詞の学習後は、好きなことや週末に楽しみたいことを理由をつけて伝え合い、相づちを入れてつながりのあるやりとりができるようにする。look + 形容詞、二重目的語構文の学習後は、2つの文型を用いてオリジナルスキットをペアで作らせ発表させたい。スキットの中に必ず理由と相づちを入れた文章にし、動名詞で行った言語活動と関連づけながら、対話を継続させる表現活動の定着を図りたい。

4 単元の指導目標

- (1) 本文をスラッシュで読み、短い文のまとまりで素早く本文を読み取ることができる。
- (2) セヴァンさんの活動について読み取り、環境問題について自分の考えを持ち、伝えることができる。
- (3) 新出文型〈動名詞、look + 形容詞、二重目的語構文〉の用法を理解し、根拠が明確でつながりのある対話文を話すことができる。

5 単元の評価規準

ア、コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ、外国語表現の能力	ウ、外国語理解の能力	エ、言語や文化についての知識・理解
① 間違いをおそれずに、積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる。 ② 相手意識をもち、相手や聞き手に伝わりやすい表現で伝えようとしている。	① 既習表現や進出表現を用いて、根拠が明確な表現ができる。 ② 対話活動において、相づち等を用い、つながりのある対話文を書いたり話すことができる。 ③ 環境保護について、自分の考えを I think that ~ の文を用いて発表することができる。	① セヴァン・スズキに関する英文を読み、重要なメッセージを読み取ることができる。 ② セヴァン・スズキのメッセージを受けとめ、環境保護について自分の考えをもつことができる。 ③ スラッシュリーディングで短文毎に前から訳すことができる。	① 動名詞 (~ing) の文の構造を理解している。 ② look+ 形容詞、become+ 形容詞の文の構造を理解している。 ③ 二重目的語構文 (give、show、tell+人+物)の構造を理解している。

6 単元の指導計画

	学習活動	評価規準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 動名詞の文の構造を理解する。 動名詞を用いた問題文をワークシートに解答する。 	エ①
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 動名詞を用いて、自分の好きなことや週末にしたいことについて、相づちを入れながら伝え合う。 	ア①、② イ①、②
第3時	<ul style="list-style-type: none"> look, become+形容詞の文の構造を理解する。 look, become+形容詞を用いた問題文をワークシート解答する。 	エ②
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 二重目的語構文の文の構造を理解する。 look+形容詞の文と二重目的語構文を用いて、4文程度の簡単なスキットをペアで考え、発表する。 	エ③
第5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作った簡単なスキットに相づち等を入れて内容をふくらませ、8文以上のオリジナルスキットをペアで考え、発表する。 	ア①、② イ②
第6時	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体を読み、セヴァン・スズキさんに関することや概要を知る。 Section 1 と 2 の本文にスラッシュを入れて音読する。 Section 1 と 2 の本文の要点に関する質問に答える。 	ウ①
第7時	<ul style="list-style-type: none"> Section 3 の本文にスラッシュを入れて音読する。 Section 1 と 2 の本文をスラッシュごとに訳す。 セヴァンさんの活動をどう思うのか、環境保護のために自分が何をすべきなのか I think that ~の文を用いて発表する。 	ウ①、②、③

7 本時の指導 (5/7)

(1) 本時の目標

- look+形容詞と二重目的語構文を用いて作った簡単なスキットに、相づちを入れながらつながりのある8文以上のスキットに修正し、表現内容をふくらませることができる。
- 創作したオリジナルスキットを、聞き手に伝わりやすく表現することができる。

(2) 研究主題とのかかわり

本校の研究主題の、「生徒に「わかる・できる」実感を持たせる指導」のために、前時に2つの重要文型を用いたスキット文をどのペアもきちんと表現できるまで指導し、重要文型を2つ入れて表現できたという成就感を持たせた上で本時の指導につなげ、本時に発展的な授業を行うことで更にできたという実感を持てるようにしたい。副題の～主体的・対話的で深い学び合いをめざして～に関わり、本時は、前時の表現を更に発展させる内容にするためには、「どのような文章を組み入れるか」、より自然な対話にするためにどのような相づちを入れるべきか」についてペアで思考し意見を出し合うことで前時の学習内容を深める学びとなるように意図している。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価の方法
ア、コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 間違いをおそれずに、積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる。 相手意識をもち、相手や聞き手に伝わりやすい表現で伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 振り返りカード
イ、外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> 新出文型を取り入れた対話活動において、相づち等を用い、つながりのある8文以上の対話文を書いたり話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 発表 ワークシート

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●評価
導入 10 分	1 Greeting 2 Review ① Look+形容詞と二重目的語構文を復習する ・ You look happy. ・ She looks sad. ・ He looked sleepy. ・ I give you two apples. ・ I' ll give her three books. ・ I show you my picture. ② 前時のスキットをペアで復習する (Look+形容詞と二重目的語構文を入れた表現) A: Oh, you look hungry. I' ll give you my lunch. B: Thank you. A: You' re welcome. 3 本時の課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 前時のスキットを8文以上にし、スキットの内容を深めよう！ </div>	○提示した絵について、テンポよく表現させる。 ○主語、時制、目的語を変え応用表現にも取り組ませる。 ○相手意識を持たせ、伝わりやすい表現で対話させる。 ●間違いをおそれずに、積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる。 ●相手意識をもち、相手や聞き手に伝わりやすい表現で伝えようとしている。
展開 35 分	4 スキットの見直し ・ 4文程度のスキットを理由や相づちを入れて8文以上のスキットに修正する。 A: Oh, you look hungry. (Why ?) (B: Because I didn' t have breakfast.) (A: Oh, really?) I' ll give you my lunch. (B: Oh, will you? I' m very happy.) B: Thank you. A: You' re welcome. 5 対話練習 6 発表 (ア) 4人グループ内で (イ) 全体で	○前後のつながりが自然な流れになるように考えさせる。 ●相づち等を用い、つながりのある8文以上の対話文を書くことができる。 ●相づち等を用い、つながりのある8文以上の対話文を話すことができる。 ○コミュニケーションスキルを意識し、コミュニケーション能力を高められるようにする。 ○スキットの発表内容の感想やアドバイスを伝え合わせる。 ○友達の良い点を学び取るようにする。 ●相手意識をもち、相手や聞き手に伝わりやすい表現で伝えようとしている。
終末 分	7 学習の振り返り ①学びの共有 8 次時の確認 9 Greeting	○本時の学習について振り返りシートに記入させる。 ○本時の学びについて発表させる。

